

第13回「淀川水系ダム事業費等監理委員会」議事録

■開催日時：令和元年10月29日（火）13：30～15：00

■開催場所：TKP ガーデンシティ京都 7階 橘

（京都府京都市下京区烏丸通七条下ル東塩小路町 721-1 京都タワーホテル）

■委員：岸田 潔（京都大学大学院工学研究科 教授）
角 哲也（京都大学防災研究所水資源環境研究センター 教授）
野村 良一（立命館大学経済学部経済学科 教授）
箱石 憲昭（国立研究開発法人土木研究所 水工研究グループ長） [欠席]
◎深川 良一（立命館大学理工学部 特命教授）
◎印は委員長（50音順・敬称略）

■オブザーバー： 滋賀県・京都府・大阪府

■委員会開催の経緯：

- ・天ヶ瀬ダム再開発事業について、前回の委員会で「可能な限りコスト縮減案の検討を行うこと」、「増額要因及び金額を精査し、委員会で報告すること」などの意見をいただいた。
- ・コスト増加要因やコスト縮減方策について、各委員への個別の相談を重ねて行った。
- ・委員からの指摘を踏まえ、金額や内容を精査したものを報告し、更なる助言を得る。

■議事概要：

委員会は委員4名の出席により、天ヶ瀬ダム再開発事業について、事業費増額項目やコスト縮減項目等の説明を行い、各委員より意見及び助言を頂いた。

■天ヶ瀬ダム再開発事業について

1. 事務局より資料－2の説明

- ・「全体事業費の変更」について、コスト縮減案の検討、不確実性の精査、増額要因及び金額の精査を行った結果について説明を行った。
- ・また、コスト縮減案の検討については、事前の個別相談で各委員から出された助言等を踏まえた増額の縮減について報告した。

2. 説明内容に対する質問 （なし）

3. 委員からの意見

- ・事前の個別相談で各委員から出された意見や助言が反映されている。
- ・鋼管矢板の切断方法については、コスト縮減だけでなく、安全性に十分配慮して施工されたい。
- ・グラウトについては施工上の工夫等も考えられるが、所定のルジオン値になるよう確実に施工されたい。
- ・不確実性については、今後モニタリングを行いながら事業費の最適化を図られたい。
- ・増額要因および金額については妥当であると考えるが、引き続き適切な事業監理に努められたい。

（以上）